

スライド 1

子供からお年寄りまで
交流の深い町にするために

目次

- ・現状・問題
- ・事例①
- ・提案

このような順番で発表します。

現状・問題

- ・高齢者(お年寄り)が多く子供が少ない
 - ・高齢者が家にずっといることが多く子供と高齢者の交流が少ない
- ↓
- ・高齢者と子供が交流する場がない

はじめに、小泉の現状・問題についてまとめたことを発表します。

小泉には、高齢の方々がたくさんいます。そして体が不自由で家から出られない人がいます。

そのような方々でも交流できる場をつくりたいと思いました。

事例

「地域食堂 & 交流ひろば」気仙沼市南町

行っている活動

〈高齢者疑似体験〉

- ・体におもりなどをつけて行う。
- ・体験した人から「見えづらい」「動きづらい」という声があった。また、「体験してよかった」という声もあった。
- ・高齢者の身になって、考える時間になった。

南町で行っている「地域食堂 & 交流ひろば」について紹介します。

そこでは、〈高齢者疑似体験〉などの体験活動をおこないました。体におもりをつけたり前が見えにくくなるめがねをかけて行ったりします。

体験した人からは、「見えづらい」「動きづらい」「体験して良かった」などという声があり高齢者の身になって、考えることができたそうです。

このように体験活動をしたうえで交流をすることができます。

このような体験活動もしながら地域の人たちでの交流をしています。

提案

- ・子供からお年寄りまで楽しく交流できる場をつくる
- <提案についての内容>
- ・たくさんの方が集まれるような場所を選ぶ
 - ・工作やゲームを一緒に行って交流を深める

私が、提案するのは子供からお年寄りまで集まりやすく、楽しく交流できる場をつくることです。

地域の人たちの中には外で運動することができない人がいます。そして体の不自由な人がいます。

そのような人でも楽しく交流できるように次のような活動内容を考えました。

活動内容(例)

〈工作〉 折り紙など

- ・折り紙や季節にあわせたおもちゃなどを子供とお年寄りが同じグループになって工作する

〈ゲーム〉 お手玉など

- ・お年寄りが知っていそうな遊び(簡単な遊び)を企画して子供が教えてもらうことで子供とお年寄りの会話が増えるようになる

子供からお年寄りまでの地域の人がみんな楽しく交流できる活動を考えることが大切です。

毎回、活動内容を変えて活動することでたくさんの方が楽しめます。

例えば、工作やゲームをすると楽しく活動できます。工作では、子供とお年寄りが同じグループになり、折り紙をしたり季節に合わせたおもちゃを作ったりと、協力しながら会話をして楽しく活動できます。

ゲームでは、お年寄りが知っていそうな昔からある遊びを選び企画すると子供がお年寄りから遊び方を教えてもらい会話が増えます。そうすることで仲良くなれます。

このような考えから私は交流できる場をつくることを提案します。未来の小泉が、子供からお年寄りまで交流の深い町になってほしいです。